五反田Ⅱ遺跡

㈱フジマート前橋箱田店新築工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

1995

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

群馬県前橋市は関東平野を一望できる赤城山の裾野に位置し、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川の清流が市街地を貫流する、水と緑に溢れた美しい県都であります。

五反田Ⅱ遺跡の所在する前橋市の東地区は近年住宅や店舗等の開発により発展しているところです。

この度、㈱フジマート様より前橋市箱田町の店舗建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼がありました。

同地区は生産遺構の検出が目立ちますが、試掘の結果、平安時代の水田址が確認されました。遺跡の取り扱いについて協議したところ現状での保存は難しいということで、記録保存のための発掘調査を実施することになりました。

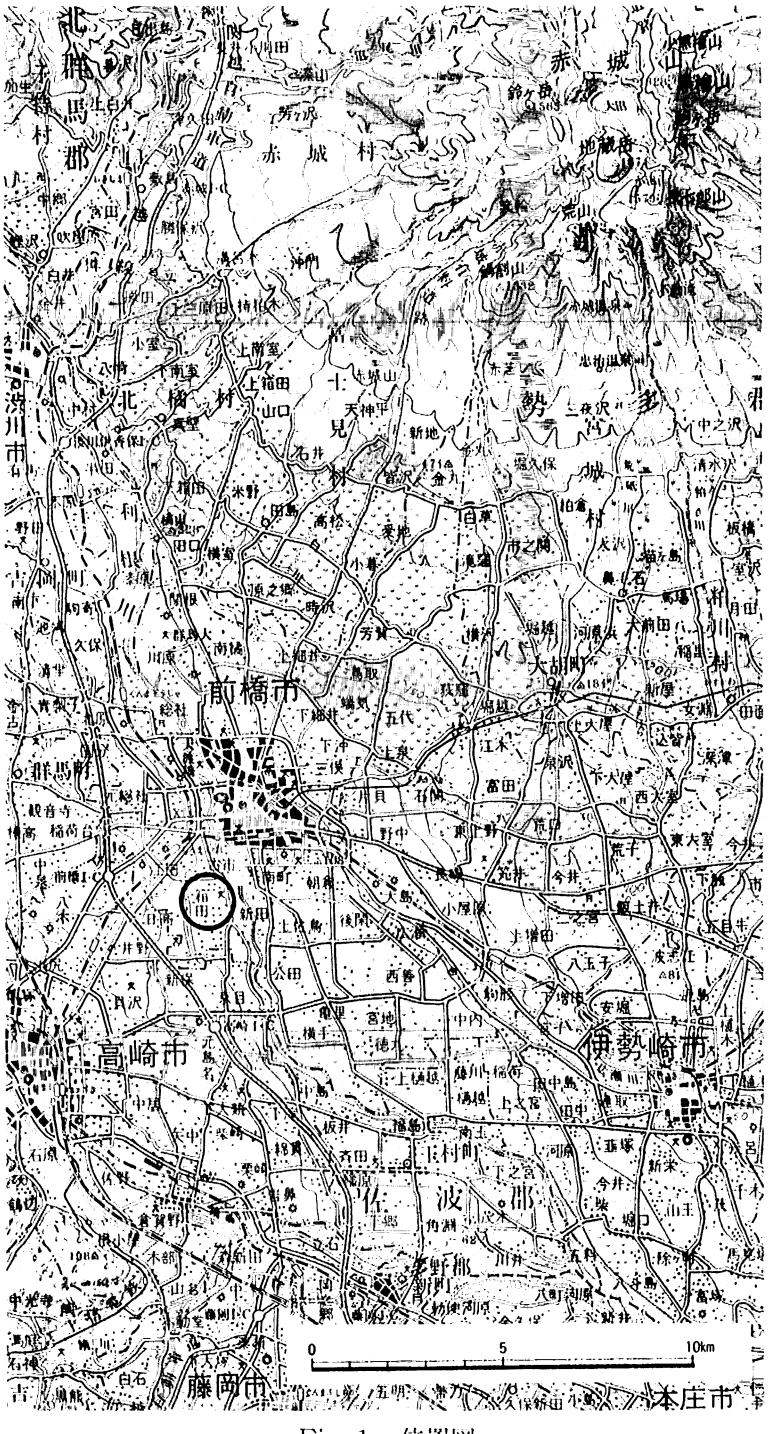


Fig.1　位置図

店舗建設予定地およそ1,400㎡の調査では平安時代末期の1108年（天仁元年）浅間山噴火による火山灰におおわれた水田址が深い眠りからさめ、当時の生活の一端をのぞかせてくれました。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり、物心両面にわたり、ご協力を頂いた㈱フジマートの方々、並びに初冬とはいえ寒い中での発掘調査、整理作業に従事して頂いた方々に対し厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いです。

平成７年３月吉日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　大谷輝治

目　　次

はじめに

例　言

本　文

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 3
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 3
Ⅲ　発掘調査の方法と経過 …… 4
Ⅳ　基本層序 …… 4
Ⅴ　遺跡の概要 …… 5
Ⅵ　まとめ …… 8

挿　図

Fig.1　位置図 …… 1
Fig.2　周辺の遺跡・調査区域図 …… 3
Fig.3　基本土層図 …… 4
Fig.4　遺跡全体図 …… 6
Fig.5　畦畔断面図（1） …… 7
Fig.6　畦畔断面図（2） …… 7
Fig.7　畦畔断面図（3） …… 7

写　真

PL.1　土層断面 …… 4
PL.2　遺跡全景 …… 5
PL.3　畦畔 …… 7
PL.4　畦畔断面 …… 7
PL.5　爆裂孔 …… 8

抄　録

例　　言

1　本書は㈱フジマート前橋箱田店新築工事に伴う五反田Ⅱ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本遺跡の略称は、6A11とする。

3　調査主体は前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

4　発掘調査の要項は、次のとおりである。

調査場所	前橋市箱田町字五反田992番1
発掘調査期間	平成6年11月10日～平成6年12月6日
整理期間	平成6年12月7日～平成7年2月28日
調査担当者	狩野吉弘

5　発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。（順不同）

石坂裕子　石坂良次　伊丹ユウ子　大賀良助　岡田　幸　岡田清治　川合房枝　小暮玉江　桜井れい
須藤キク　須藤八江子　登坂ミヨ　富沢清八　中林美智子　長井武之　堀込とよ江

Ⅰ　調査に至る経緯

株式会社フジマート(代表取締役藤田勝好)の前橋箱田店建設に先立ち、平成６年４月27日に埋蔵文化財確認調査を当該地区にて実施した。その結果、店舗建設部分全域から平安時代の水田跡が発見されたため、フジマートと前橋市教育委員会が協議・調整を重ねた結果、平成６年11月初旬に前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団が発掘調査を実施することになった。なお、遺跡の名称は、同調査団が昭和60年度に箱田町字五反田で調査を実施した五反田遺跡に因み、五反田Ⅱ遺跡とした。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

五反田Ⅱ遺跡は、前橋市街から利根川を挟んで南西に約３㎞の、前橋市箱田町字五反田992番の１に所在する。

本遺跡の西方200ｍには滝川が、東方1.3㎞には利根川が緩やかに南流し、南東500ｍには大利根団地の家並みが屋を連ねている。遺跡地周辺の地形はほぼ平坦で、実際には１／200の勾配で南に傾斜しているが、肉眼では家並みの中に残る水田の広がりから、わずかに南に傾斜していることが窺われる程度である。本遺跡が立地する前橋台地上は、古代から水田が営まれていた地域で、群馬県における水田址研究の端緒ともなった高崎市域の日高遺跡は、滝川と染谷川を隔てて西方2.3㎞に在る。また付近には本遺跡と同時代となる、平安時代末期の水田址が検出された五反田遺跡、村前遺跡、前箱田遺跡、箱田境遺跡、勝呂遺跡、柳橋遺跡などが存在する。

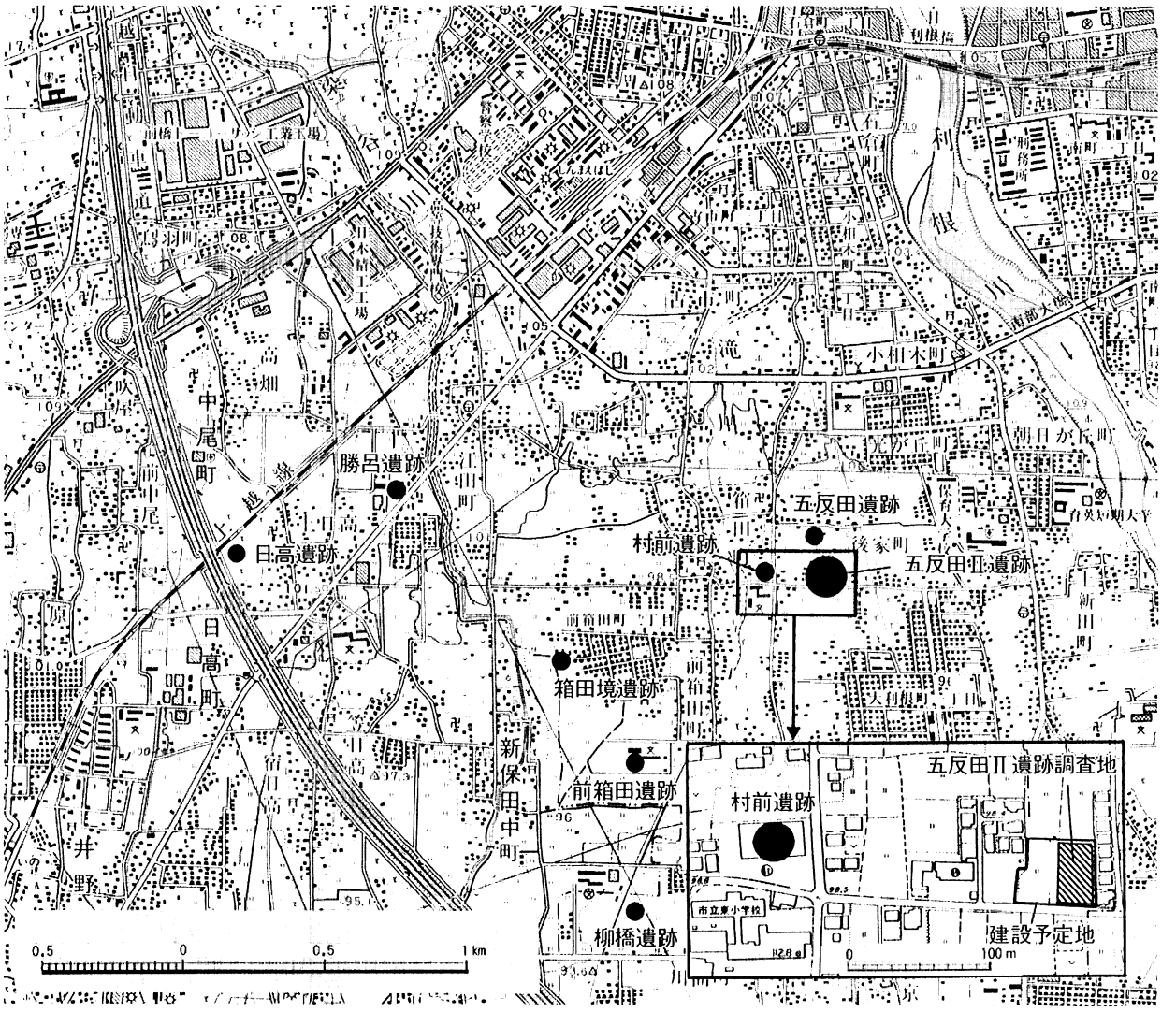


Fig. 2　周辺の遺跡・調査区域図

Ⅲ　発掘調査の方法と経過

1　方法

委託された調査箇所は、東西27.3ｍ、南北45.4ｍ、面積1,200㎡の店舗建設予定地であり、現況は休耕田であった。グリッドについては、４ｍピッチで西から東へＸ１、Ｘ２、Ｘ３‥‥Ｘ10で表し、北から南へＹ１、Ｙ２、Ｙ３‥‥Ｙ15と番付けし、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。なお、Ｘ６・Ｙ６の国家座標は、第Ⅸ系のＹ＝－69,568ｍ、Ｘ＝＋40,576ｍである。図面作成は平板・簡易遣り方測量で行い、主要な畦畔の断面等はスケール1／20で、遺構全体図はスケール1／40で作成した。

2　経過

平成６年11月10日、重機による表土掘削を皮切りに調査を開始した。現水田の耕作土を20～30cm掘り下げたところで、浅間Ｂ軽石層上面が現れたが、作業が進むにつれ、試掘段階では予想もしなかった湧水によって調査区の南半分は冠水してしまった。調査区周囲に排水用の水路を設け、南端部でポンプアップすることで対処したが、以後も湧水は続いた。その後、調査は湧水による制約を受けながらも掘下げ、遺構精査と順調に進み、11月末には、南北畦畔２本と東西畦畔４本から構成される14枚の水田を検出することができた。そして、12月１日にはハイライダーによる全体写真撮影を、翌日から遺跡全体測量に入り、12月６日には全工程を終了した。

Ⅳ　基本層序

本遺跡地内の北側部分の深掘りから得られた地層の堆積はFig.３のとおりである。
Ⅳ層の下部から下は湧水のため不明である。

Ⅰ層　表土。現水田の耕作土層。

Ⅱ層　耕作土とAs-B軽石の混土層。

Ⅲ層　1108年（天仁元年）浅間山の噴火に伴い、降下したAs-B軽石の純層。淡黄色ないし灰白色を呈する直径１～２㎜の軽石。

Ⅳａ層　平安時代末期の水田耕作土層。まばらにオレンジ色の鉄分凝結が見られる。粘性強い。

Ⅳｂ層　粘性の強い黒褐色土層。Hr-FP（６世紀中頃）、As-C（４世紀中頃）を15％含む。

Ⅳｃ層　As-Cの純層に近い層。オリーブ灰色を呈する。

Ⅴ層　粘土層に近い黒色土層。鉄分の酸化が、まばらに見られる。

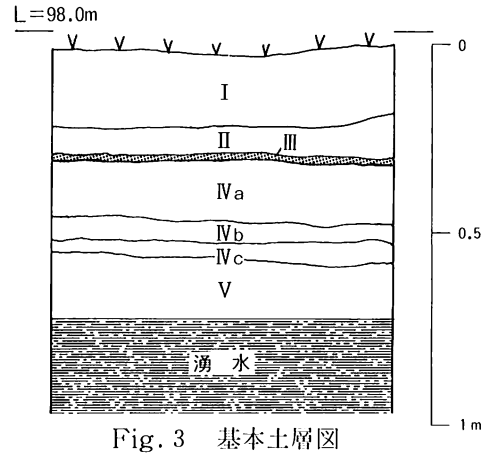
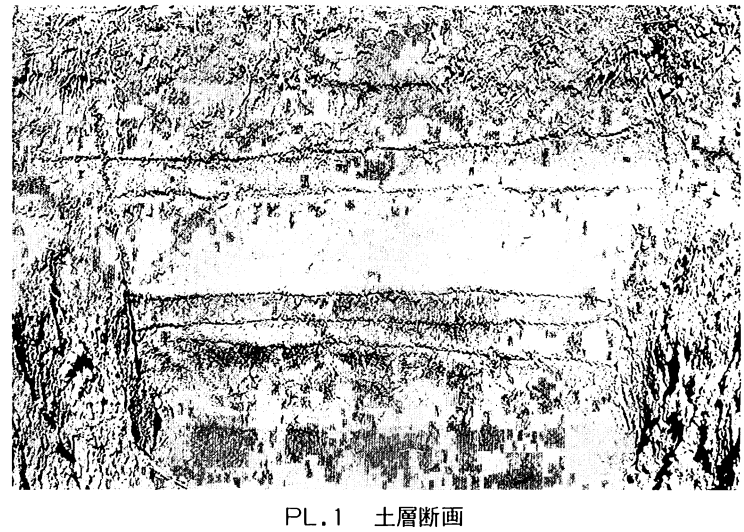


Fig.３　基本土層図


PL.１　土層断面

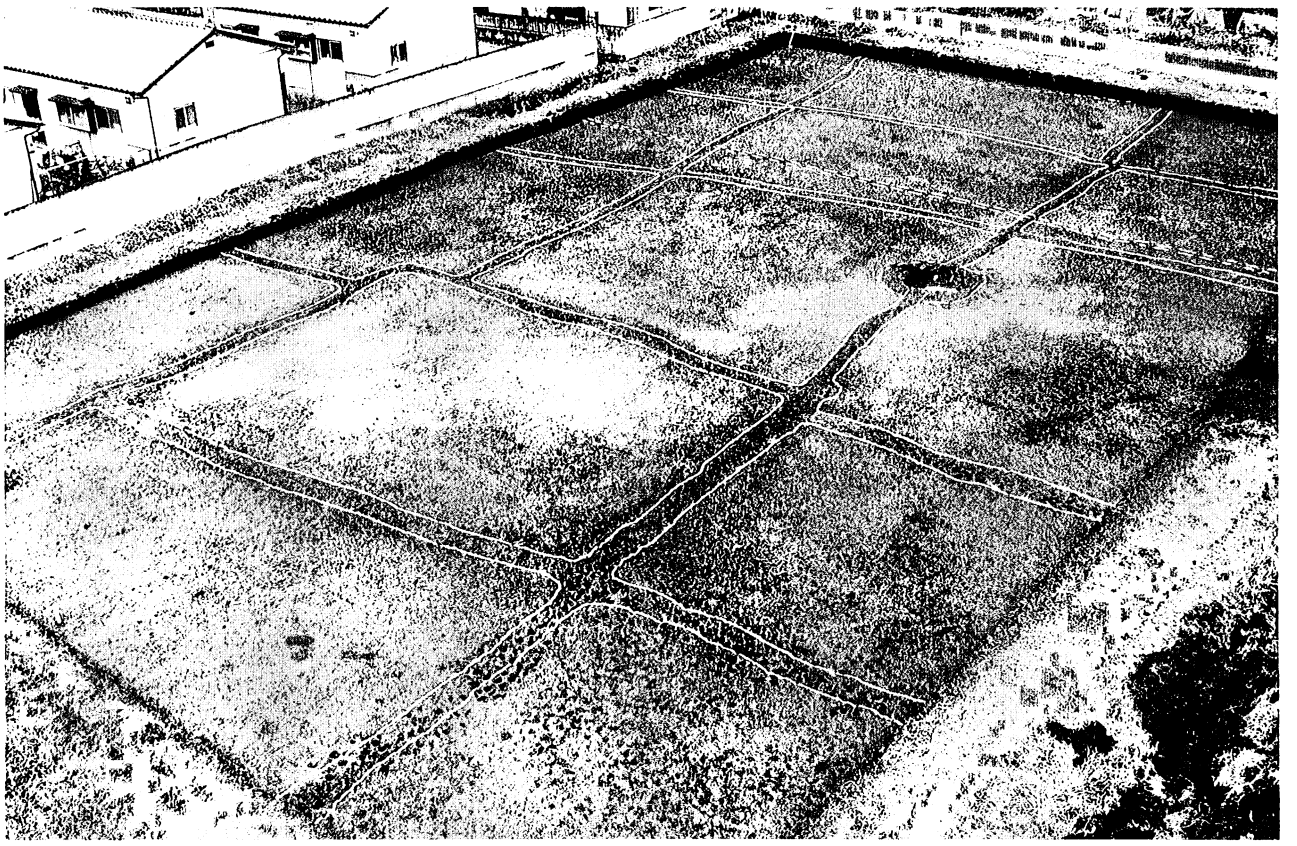
V　遺跡の概要

五反田Ⅱ遺跡は平安時代末期（1108年・天仁元年）の浅間山噴火に伴う軽石（As-B軽石）で埋没した水田址である。水田遺構面は表土下約25～40cmにあり、それを層厚４～６cmのAs-B軽石純層が覆っていた。

畦畔の遺存状況は概ね良好で、東西方向に走行する畦畔４本と、南北方向に走行する畦畔２本の合計６本の畦畔を検出することができた。これらの畦畔は、ほとんどが下幅40～50cm、水田面からの高さ（厚さ）４～８cmの範囲内でおさえられ、断面形は総じてカマボコ状ないし緩やかな台形を呈している。ただし連続する畦畔でも、部分的には幅広く、かつ厚みの少ない偏平な箇所も見受けられる。また、各畦畔の走行ラインは、南北畦畔では、真北に対し西方向に約２°の傾きを持ち（N－２°－W）、東西畦畔は総じてこれとほぼ90°で対応するラインを維持している。

検出できた水田のうち、四隅を畦畔に囲まれた完全な形のものは水田⑦・⑧・⑨の３枚のみである。形状は、水田⑦・⑨が東西に長軸をもつ横長方形で、水田⑧はほぼ正方形を呈している。その他の水田は、水田⑦・⑨と概ね同様の形状を呈しているものと考えられるが、水田⑪は他とは異なり、南北に長軸をもつ長方形を想定させるものとなっている。なお水田の規模は水田⑦で東西14.2ｍ×南北9.9ｍ＝137.3㎡、水田⑧で東西11.2ｍ×南北12.1ｍ＝138.3㎡、水田⑨で東西12.7ｍ×南北約9.0ｍ＝108.7㎡である。（長さは畦畔の芯々間で計測）また、本遺跡からは水口が１カ所しか検出できなかったことから考えると、上流の水田から下流の水田への給水方法は水田①・⑥・⑪などの標高の高い水田が満水になった後、東西畦畔をオーバーフローした水が、順次、南方向の水田へ流れ込む、いわゆる「かけ流し」の方法をとっていたものと考えられる。

各水田面上には足跡と思われる多数の凹みが認められたが、湧水の影響から遺存状況が悪く、精査は断念せざるをえなかった。なお調査中、南北畦畔１のなかほどに直径約２ｍの真円状のくぼみを検出した。あたかも測ったかのように、畦畔上にあることから同時代の遺構とも思われたが、精査の結果、くぼみ内から爆弾の破片が出土し、また地権者の証言も得られたため第２次大戦中の米軍による空襲によってできた爆裂孔と断定した。



PL.２　遺跡全景

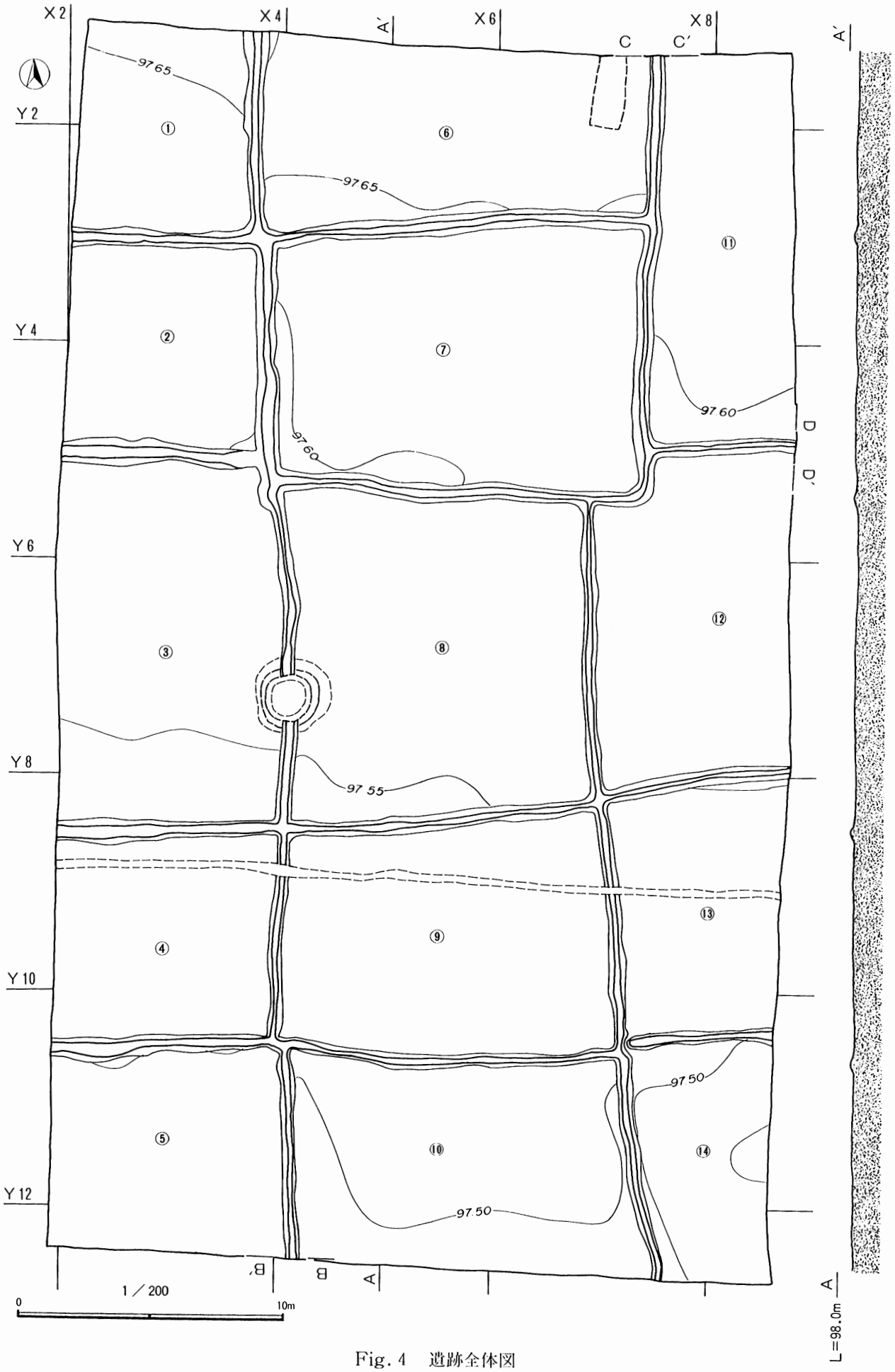

X2
X4
X6
X8
A'
C
C'
Y2
Y4
Y6
Y8
Y10
Y12
97.65
97.65
97.60
97.60
97.55
97.50
97.50
D
D'
B
B'
A
A'
1／200
0
10m
L=98.0m

Fig. 4　遺跡全体図

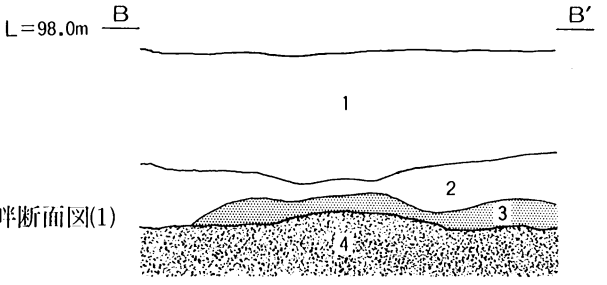


Fig. 5　畦畔断面図(1)

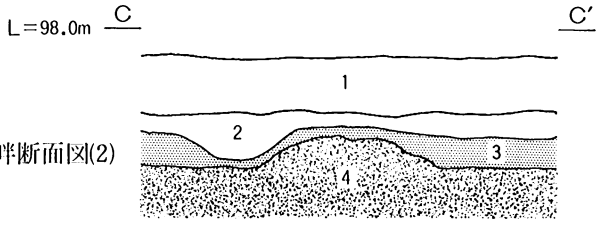


Fig. 6　畦畔断面図(2)

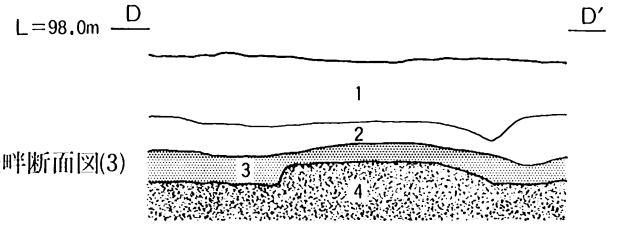


Fig. 7　畦畔断面図(3)

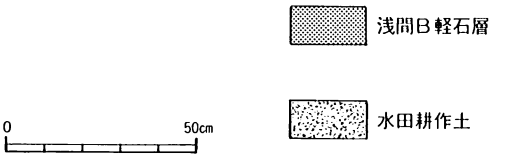
層序説明

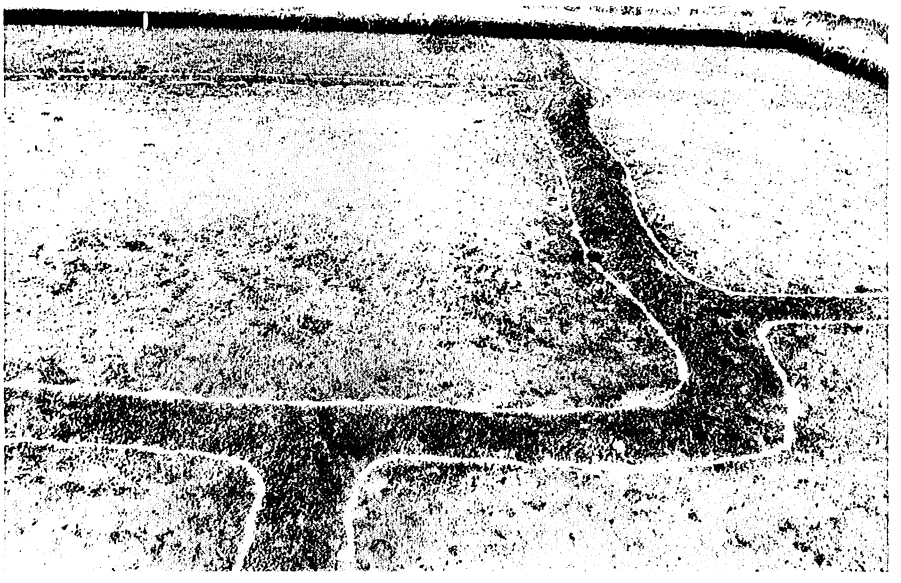
1 層　暗灰黄色細砂層。粘性、締まりともにやや有り。現在の水田耕作土。

2 層　暗褐色細砂層。粘性なし。締まり有り。As－Bを30％含む。

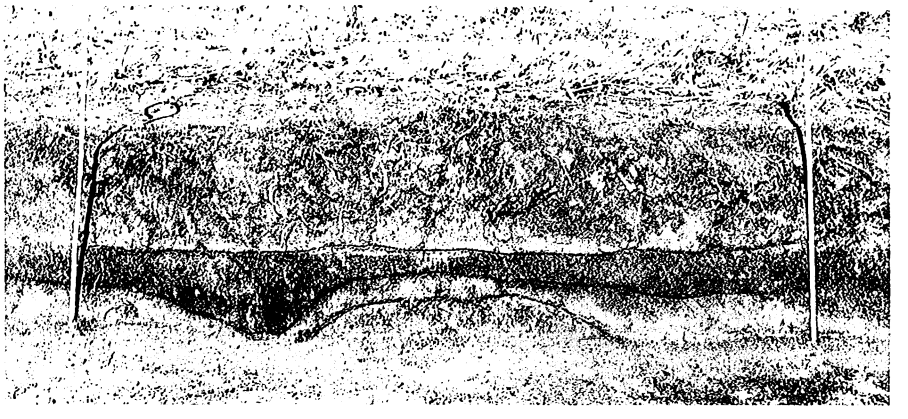
3 層　黄橙色粗砂層。As－B純層。鉄分の酸化が見られる。

4 層　灰黄褐色微砂層。Hr－FP、As－Cを微量に含む。平安時代の水田耕作土。





PL. 3　畦　畔



PL. 4　畦畔断面

Ⅵ まとめ

調査の結果、五反田Ⅱ遺跡からは、1108年（天仁元年）の浅間山噴火に伴うAs-B軽石に埋没した、平安時代末期の水田14枚を検出することができた。各水田の規模は下記の水田計測表のとおりである。

本遺跡の水田の形状は、Ⅴで述べたように、水田⑦・⑨に見られるような東西に長軸をもつ横長方形を基本とした、面積110㎡～140㎡内外のものである。これは、前橋市域で過去に調査された平安時代の水田址の中では、比較的小規模なものである。本遺跡の北方150ｍに位置する五反田遺跡では、南北に長軸をもつ縦長方形を基調とした12枚の水田が検出されたが、規模は約80㎡のものや160㎡のもの等があり、一様ではない。また西方約200ｍの村前遺跡では東西に長軸をもつ水田が６枚検出されているが、面積は約250㎡前後の大きなものとなっている。三遺跡は近接する遺跡ではあるが、個々の水田の形態に関しては、ほとんど共通性は見られない。

また、本遺跡から水口がほとんど検出できなかったことについては、南方向に隣接する下流の水田への給水を東西畦畔をオーバーフローさせる「かけ流し」でおこなったものと想定したが、東西畦畔の標高がその上流側の水田面より低い場合には、水田内は完全に冠水しないケースも考えられる。その点で表中の水田面と畦畔との比高は、ほとんど畦畔の方が低いことを示しており、畦畔の圧縮とも関係するが、疑問の余地が残る。

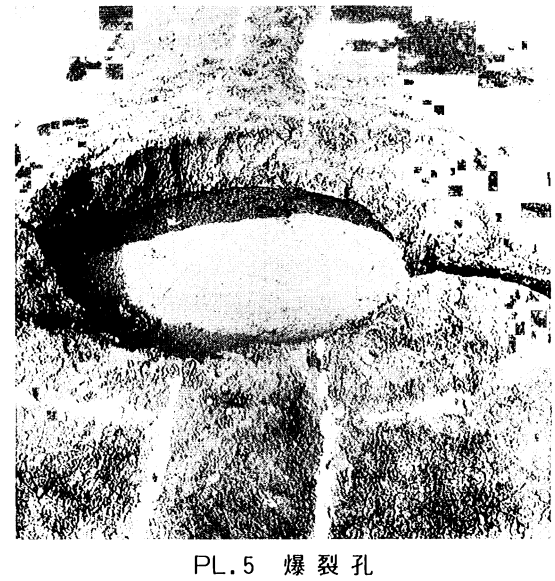
次に、本遺跡と条里制との関連について若干述べる。本遺跡の所在する前橋台地周辺は、1970年代から1980年代にかけて上越新幹線や関越自動車道の建設に伴い、高崎市域を中心に大規模な古代水田址の発掘が盛んに行われてきた地域である。特に利根川以西の前橋台地上においては、元総社を中心とした国府域に接していることもあり、条里水田の復元を目標にした平安時代水田址の調査が活発に行われてきた。本遺跡も周辺の現地表に見られる地割や、近隣に残る「市之坪」という字名からしても条里制が施行されていたと推定される場所にある。しかし今回の調査では、条里水田の指標と考えられる、いわゆる１町（約109ｍ）方格の面積（＝１坪）を構成する大畦畔（坪境畦畔）とその交点（坪交点・条里交点）の検出は、調査範囲が狭いため、できなかった。また、調査区内の水田形態は、ほぼ東西・南北に畦畔が走行し、条里制の遺制を残していることは推察できるが、具体的に、長地型か半折型かの区別までは、判断を下すことはできなかった。

最後に、本遺跡の調査では、特に湧水の影響をうけた調査区の南半分では水田面の標高や東西畦畔との比高差に若干の誤差を含むことを申し添えておく。

水田計測表

水田	規模 東西(m)	規模 南北(m)	規模 面積(㎡)	標高（m） 最高	標高（m） 最低	標高（m） 標準	水田面と畦畔との比高
①	(6.4)	(8.0)	(51.64)	97.67	97.63	97.65	－2
②	(7.4)	7.9	(59.04)	97.63	97.60	97.62	0
③	(8.6)	14.0	(116.49)	97.60	97.51	97.57	－4
④	(8.3)	7.9	(65.83)	97.54	97.49	97.52	1
⑤	(8.8)	(8.2)	(68.67)	97.52	97.42	97.50	不明
⑥	14.9	(6.7)	(98.45)	97.67	97.64	97.66	－1
⑦	14.2	9.9	137.28	97.64	97.60	97.62	－2
⑧	11.2	12.1	138.26	97.60	97.53	97.56	－4
⑨	12.7	9.0	108.67	97.55	97.51	97.53	－1
⑩	12.9	(7.8)	(101.66)	97.52	97.48	97.50	不明
⑪	(5.2)	(14.5)	(79.79)	97.65	97.59	97.63	0
⑫	(7.3)	12.2	(88.13)	97.60	97.54	97.57	－1
⑬	(6.2)	9.6	(58.77)	97.55	97.50	97.52	－1
⑭	(5.2)	(9.3)	(44.53)	97.51	97.47	97.50	不明

註　表の記載は以下の基準で行った。
1　東西、南北の長さは、1／40の図面上における畦畔の芯々間の距離。
2　水田面積の算出は、1／40の図面上で、プラニメーター（ローラー極式・レンズ式）による３回計測の平均値。（小数点第３位は四捨五入）
3　規模における（ ）内の数値は現存値である。
4　水田面と畦畔との比高とは、水田の下流方向（南）に位置する東西畦畔頭頂部（最低レベル）と水田面（最高レベル）との比高である。



PL.5　爆裂孔

参考文献

1．『群馬県史　通史編２』　群馬県
2．1987　『村前遺跡』
　前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団
3．1987　『五反田遺跡』
　前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団
4．1987　『勝呂遺跡』　前橋市教育委員会

抄　　録

フリガナ	ゴタンダニイセキ
書名	五反田Ⅱ遺跡
副書名	㈱フジマート前橋箱田店新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	狩野吉弘
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371　群馬県前橋市上泉町664－4
発行年月日	西暦1995年3月24日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	位置 北緯	 東経	調査期間	調査面積	調査原因
ゴタンダニ 五反田Ⅱ	マエバシシハコダマチ 前橋市箱田町	10201	6A11	36°21′49″	139°3′30″	19941110 19941206	1,400㎡	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
五反田Ⅱ	水田址	平安時代	水田址　14枚	なし	なし

五反田Ⅱ遺跡

1995年3月20日　印刷
1995年3月24日　発行
編集・発行　前橋埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664－4
TEL　0272－31－9531
印　　刷　松本印刷工業株式会社
前橋市紅雲町一丁目12－3